

## 競技注意事項

- 1 本大会は、2015年（財）日本陸上競技連盟競技規則および大会要項ならびに競技注意事項による。
- 2 ウォーミングアップ場は、バックスタンド下段及び河川敷グラウンドとする。
- 3 競技者は、受付で渡すナンバーカードをユニフォームの背と胸につける。
- 4 トラック競技出場者およびリレーのアンカーは、腰ナンバー標識（横18cm×縦12cm、黒字のレーンナンバー）を右腰につける。四隅をきちんととめること。腰ナンバー標識と安全ピンは、各団体に用意すること。ただし、800m、1500mは主催者で用意するので、競技終了後、役員に返却する。
- 5 競技場はすべて全天候型のため、ランニングシューズまたは陸上競技用スパイクシューズを使用してもよい。スパイクピンの長さは7mm以下とし、先端が鋭利なものは使用しない。なお、素足での競技は禁止する。
- 6 招集点呼は次のように行う。
  - (1) 招集所は第4ゲート外側テント（100mスタート後方）で行う。
  - (2) 招集時刻については、トラック競技は競技開始30分前開始、20分前完了とする。フィールド競技は競技開始40分前開始、30分前完了とする。
  - (3) 競技者は、招集完了時刻までに招集所に集合し、点呼を受ける。その際、役員にナンバーカードとスパイク、競技場内への持ちこみ物品の確認を受け、その場に待機する。
  - (4) 選手が種目を兼ねてやむを得ない場合に限り、代理人の点呼を認める。
  - (5) 本人または代理のいない場合は競技に参加できない。
  - (6) 事前に棄権がわかっている場合は、競技者係（招集所）に申し出ること。
- 7 競技方法について
  - (1) トラック競技について
    - ① 予選はタイムレースとし、上位8名または8チームで決勝を行う。同タイムの場合は本部で本人による抽選で決定する。ただし同組の場合のみ着順優先とする。抽選は競技者の呼び出し後、5分以内に完了するので監督、競技者は注意すること。
    - ② 3、4年100m、3・4年共通4×100mリレー、800m、1500mは、タイムレース決勝とする。抽選により、各組を編成する。
    - ③ スタートについて
      - ◆ 100m、80mハードル、リレーのスタートはクラウチングスタートを原則とするが、スタンディングスタートも認める。
      - ◆ 800m、1500mは、オープンスタートとする。
      - ◆ スタート合図は日本読み（「位置について」「用意」「位置について」）とする。
      - ◆ スタートの不適切行為（最後のスタート体制から静止しない等）があったときは、指導を行う。

う。

◆同じ競技者が2回不正スタートをしたときは、その競技者を失格とする。

④80mハードルは日清カップの規格に準ずるが、ハードルの高さは68cmとする。

ハードルの高さ	第1ハードルまで	ハードル間	最終ハードルからフィニッシュ地点	台数
68cm	13m	7m	11m	9台

⑤共通男女5・6年生リレーのみ、テークオーバーゾーン手前からの助走マーク（10mの補助ゾーン）の使用を認める。

⑥リレーのオーダーは、所定の用紙に記入し、予選・決勝ともに、招集完了1時間前までに競技者係（招集所）に1部提出する。

⑦リレーに参加するチームは、同一のユニフォームで出場することが望ましい。

## (2) フィールド競技について

①男女の走り高跳び（はさみ跳び）について

◆マットへの着地は足裏からとし、背・腰からの着地は無効試技とする。

◆バーの上げ方は以下の通り。ただし、状況により変更することがある。

（練習95cm）100cmから130cmまで5cmきざみ、以後3cmきざみ

◆1位決定後の上げ方は、本人の希望による。

◆同一の高さへの試技は3回までとする。

◆1回の試技時間は1分以内とする。

②男女の各学年走り幅跳びについて

◆試技は全員が3回とする。

◆計測は踏み切り板を超えると無効試技とする。

③ヴォーテックス投げについて

◆やり投げピットを使用する。助走路は15m以内とする。投げ方は、やり投げと同じとし、オーバースローで投げる。横投げ、下手投げは禁止する。

◆器具は主催者側で用意したものを使用する。（NISHI製、約180g）

◆試技は全員が3回とする。公式練習は1回のみとする。

(3) 競技用具は会場備え付けのものを使用する。

(4) トラック競技の走路順、フィールド競技の試技順はプログラムに数字で示す。

(5) 各種目のリザルト（競技結果）および決勝のスタートリスト（番組編成）は、正面入り口横の掲示板に掲示する。

8 表彰について 各種目8位までの入賞者には賞状を授与する。3位までに楯を授与する。

9 当該競技出場者、競技役員、補助役員、許可を得た報道関係者、競技運営協力員以外は絶対にトラック・フィールド内に入らない。

10 ゴミは各自持ち帰ること。

11 競技会中に発生した傷害・事故等については、主催者側で応急処置はするが、その後の処置については、主催者側で加入しているスポーツ傷害保険の範囲とする。

医務室はアナウンス施設後ろ（赤十字のマークあり）に設けてある。